

平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	分析機器エキスパート(P-DEX)養成事業	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	SVBL	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	繊維学部	
実施責任者(所属)	小西 哉 (SVBL)	
取組の目標	学生が主体的に分析・加工装置の操作方法を習得できる環境を整備する。学生が教える立場になる事で”教えることで学ぶ”を実践する Peer 教育を促す。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 走査型電子顕微鏡(SEM)、表面プラズモン共鳴測定装置(SPR)、液体クロマトグラフ質量分析装置(LC-MS)を学ぶ学生の支援をした。 2. 月度報告会、技能検定、成果報告会を実施した。 3. 3D プリンタ造形および画像編集のセミナーを開催した。 4. SEM および LC-MS の体験講座を開催し、各キャンパスから参加者を募集した。学外の技術セミナーに参加した。 5. サイエンスインカレに出場するグループの指導を行い、研究発表会に参加した。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(そう評価する理由) 本年度は SEM 班が 4 名、SPR 班が 5 名、LC-MS 班が 2 名活動し、学生が主体的に設定したテーマで研究活動を行った。技能検定に 10 名が参加し、10 名全員が修了した。12 月 13 日(土)に SEM と LC-MS の体験講座を開催し、各キャンパスから下記の人数が参加した。LC-MS 講座に 11 名(教育学部 2 名、農学部 3 名、医学部 2 名、工学部 2 名、理工学系研究科 2 名)、SEM 講座に 7 名(教育学部 2 名、理学部 1 名、農学部 1 名、農学研究科 2 名、教育学研究科 1 名)が参加した。
	b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(今後の展望) ここ数年、参加する学生が減少していることから、広報を強化して学生の募集と活動の紹介を積極的に行う。